時事新報は一年三百六十五日一日も休刊なし

時事新報

第二千三百三十三號　木曜日
明治廿二年六月廿七日
舊曆巳丑五月廿九日（甲、戌）
日出午前四時二十八分
日入午後七時五十九分
月出午前三時二十七分
月入午後六時二十二分
滿潮午前四時三十九分
滿潮午後五時零一分
（西曆一千八百八十九年）

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

○一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
○一箇年前金六圓
○遞送料ハ本社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

僧侶の說

我輩が本月二十二日の時事新報に各地方僧侶の俊秀ある者をして專ら醫學を講究せしめ甚だしく人命を誤らざるの練習を積みて寺院所在の人の需に應じたらば便利あらん云々と記したるに付大澤謙二氏は此說を非なりとして左の書を寄せられり

僧侶の醫藥兼業に就き

貴社本日の論說中僧侶をして醫業を兼しむべしとの一節有之其據る處は東京の如き醫師に餘りあれども田舍ゝは漢法の庸醫さへ得難き所あり僧侶にして之を兼ることを得ば人民の便益は勿論醫は仁術とも申す程故弘法の一助ともなるべしと云ふにあり[illegible]其の昔人智未開の世にありては別に醫師と云へる者もなく殆ど今日の野蠻社會に等しき有樣なりし事は疑なく中古に至り僧侶が醫を兼たるみとも實事にして御一新前迄は法眼法院抔云へる醫官のありし事も御熟知なり併し今日の人民は昔日と同じからず今日の醫學も昔日ゝ比して六ケ敷相成たり醫學の初歩を講究したる位にては甚しく人命を誤るあらん生は宗教の學を知らざれども醫學は片手間に修め得る者とも存ぜず御記者は少く醫學を輕蔑せられたる樣なり否人命を輕蔑せられたる樣なり醫は司命の職と申すゝあらずや[illegible]の醫師に生命を任せよとはちと御無理かと存ずるなり成程今日の醫者社會ゝは隨分無學の徒もあるべし之を除きてみそ記者も御安心なるべく社會の利益ともなるべし吾人が一箇年平均二十日の間病氣に罹るみとは近來の統計に由て知り得たる事實なり其病氣の間は藥餌其外の費用を要する者なれは差引勘定隨分大なる損毛と云ふべし如何程醫學が進步すればとて丸で病人のなき樣ゝするみとは六ケしかるべしと雖とも病臥の日數を減じ得るみとは受合なり安くて下手な醫者ゝかゝるより高くても速く治して與る者を頼む方利益あるみと疑ひなし又都下には醫師ゝ餘りありて邊鄙に缺乏あるは記者の云はるゝ通りにて田舍で半飢の生活を營まんより寧ろ萬一の僥倖を頼として都下ゝ餓死せんとする者あるは奇妙なれども是亦人情の然らしむる所ゝして吾邦にのみ限りたる事ゝあらず醫師の乏しき所にては町村費等を以て有力の者を雇聘くの例は歐洲に乏しからず上等の[illegible]の損得を熟考せば隨分高價の給金を出すも決して損失にはあらざるべし何分にも記者の御論に感伏致し難く候段紙上に御記載被下候はゝ幸甚

六月廿二日　　大澤謙二

時事新報記者足下

[illegible]僧侶が醫を兼るは昔の事にして今日の[illegible]と同じからず醫學も亦昔日ゝ比して六ケ敷なりたる[illegible]醫學の進步を[illegible]びたる位ゝて人命を誤ると云ふが如し成るほど醫學の進步して次第に六ケ敷なりたるは諸學術一般のみとゝして相違なけれども僧侶ゝ此むづかしき醫術は叶はずとの理由は受取り難し僧侶にて醫を兼るみとは其事例を日本の往古に求るに及ばず今日現ゝ西洋諸國の僧侶は宣教の傍に醫を兼る者多きにあらずや今の日本の僧侶に限り醫師兼業の難きみともなかる可し又今日の日本人は昔日と同じからずと云はれたる其異なる所は固より古今生理を殊ゝするゝ非ざれは知見進步して昔日の愚ゝ非ずとの義か、又は富貴增加して昔日の貧に非ずとの意味か、何れ此邊の趣意ならんとして成るほど今の人民は教育も次第に進步し衣食も次第ゝ足るが如くなれども是れは僅に國中の小部分ゝして滔々たる大數は無智甚だしく貧窶ゝ生命を托して安心する者さへあるは爭ふ可らざる事實にして此種の愚民多きは獨り田舍のみに限らず此帝都中に在ても我輩は大澤氏と共ゝ常に目擊耳聞する所あり左れは斯る愚民の病に接しては假令へ大醫名家の巧手段を施すゝ由なしとするもせめては醫學の大趣意を心得たる者ありて直に活療を施すゝ非ざれは深切に忠告を與ふるが如き其功德は如何ばかりなる可きや即ち僧侶に相應の職分にして單ゝ種痘の利益を說き勸めて手づから之を施すはかりゝても人生の壽命を長くするに足る可し氏の考案は學理より論じ來り天下萬民の病氣ゝ就ては都て最上の治療を施さんとの所望なる可し紙上の議論のみゝては感服の外なしと雖も許さゝるものは費用の一事にして多數の人民は尋常一樣の食物をも得ずして飢寒と名づくる不養生を犯すの常なり此輩が病に罹るに當り假令へ名醫國手あるも其療法を如何するやミルクも好しソップも妙なりと雖も家に一錢の猶豫あらざれは死と知りながらも本式の治療は施す可らず或は町村費を以て有力なる學醫を雇ふなど是れも一說なれども町村費と云ふ其費は民費ゝして民の負擔に堪るや否や、假令へ之に堪へて名醫を得るとするも是れ亦國中の小部分たるに過ぎず其小部分にも貧民の貧なる者は藥餌を買ふに錢なきを如何せん故に學理の一方に着眼して錢の事を問はざれは眞法妙藥は涌くが如くにして必ずしも氏の說を俟たず我輩に於ても工風ゝ乏しからずと雖も錢の爲めには學理も降參せざるを得ず畢竟我輩が僧侶ゝ醫業兼帶を勸むるも國民貧窮の窮策に出てたるみとにして今日の有樣に於ては此窮策を上策とするのゝ大澤氏は日本國中に完全無缺の名醫を作りて人民の貧富ゝ論なく完全無缺の醫療を施し一年平均二十日の病氣を十日ゝ減し五日ゝ縮め遂には無病ゝ至らしめんとの大望なる可けれども其大望は後世何れの日ゝ達す可きや千里の旅中僅に數步を發したる今日、各地方の田舍にては庸醫をも得ずして病苦し又病死するもの多し此忙しき時ゝ當り假令へ醫學の上乘に至らざるも學理の大意を誤らざる僧醫を得るは經世の大利益ならずや況んや僧侶中には俊秀の人物も少なからざれは斯る有力なる名醫を生じて氏の所望を滿足せしむるみともある可きに於てをや我輩は唯目下の急を救はんと欲するのみ之を譬へば氏が醫療の完全大成を望むは二汁五菜の盛膳を待つが如し百年千年の後には調理するみともあらんなれども吾々日本國民は空腹にして之を待つ可らず無理に待てと命せらるれは餓えて死するの外なし左れば氏が平均二十日の病氣を短縮せんとする冀望も氏の說に從て歳月を猶豫したらんゝは其猶豫する間ゝ短縮はせずして却て增長するみとある可けれ人命を重んするの重きに過ぎて其成跡は、之を輕んしたるの實を見るみともあらんとは我輩の服するみと能はざる所なり

雜報

○ヂスレリー氏　卑賤より起り英國大宰相の職に就きて歐洲の覇權を握り盛名世界ゝ轟きし故ビーコンスフヒールド侯ヂスレリーの姪に當れるヂスレリー氏は必ず政治社會ゝ頭角を現すならんと待ち設けし人々頗る多かりし由なるが同氏は去月十五日始めて公然政談演說をなし愛蘭自治案を攻擊せしかは多分保守黨か又は聯合自由黨に加入して政事社會ゝ奔走するならんと云へり氏は能く經綸の大策を畫して第二のビーコンスフヒールド侯となり得るや否や

○關西大同派の談話會　此程の紙上に記載せし關西有志懇親會に出席せし兵庫縣の佐野助作、岡山縣の加藤平四郎の兩氏が發起となり去る廿二日神戶より板垣伯を大坂の清花樓に招待し前日懇親會ゝ出席せし各地の有志者大坂倶樂部員等凡七十名計を會合し板垣伯は關西大同派將來の運動上に付種々意見を述べ又來會者中より伯ゝ向て種々の質問等ありしも伯は此談話ゝ關しては公にせざらん事を欲したれば同日の會話は總て秘密に屬し他人の聞く由なかりしも多くは關西有志懇親會ゝ係る事ならんと云ふ者ありき又傳て記載せし大坂の大同團結派中大坂倶樂部と獨立黨員即ち現今の月曜會員との不折合なる事實に就ては板垣伯は將來大同派の運動上に甚だ不利なれは雙方の間に立ち調停を試み彼の談話會閉會の後雙方の重立ちたる黨員を集め種々懇談せしも其場ゝて纏りの付き兼ぬる事情もあれは加藤平四郎、佐野助作、鈴木庄司、西山志澄の四氏を調停委員となし雙方共に近日會員一同の總會を開き之を決定する筈なりと云ふ

○廣嶋の彙報　驚くべき棄權者の數　廣嶋市會議員の撰擧は去る十二日に始り十七日を以て結了し議員三十六名を撰出したりされど茲ゝ驚くべきは自己の撰擧權を徒に放棄したる人數の夥しき一事なり今同撰擧會に就て棄權者の員數を各級に就て調ぶれば第三級公民ゝては投票者千二百八十六人ゝして投票せざるもの千七百三十一人、二級公民にては投票者三百二十九人にして投票せざるもの百四人、一級ゝては投票者六十七人にして投票せざるもの十一人今之を通計して其割合を求むれば

撰擧人總數　三、五二九　投票せし者　一、六九五　此割合　〇、四八
投票せざる者　一、八四六　〇、五二

右の如し隨分棄權者の多きを見るべし○興產議會の處分　地方税の補助を得て[illegible]共利益金を中學校資本に充てんとて設立したる興產議會にて[illegible]の處分に就ては[illegible]議決せざりしが此程遂に長井郡長、山[illegible]郡夫、黑川偉三、[illegible]三郎、[illegible]太郎、岡本政之助、川上昇の七氏を撰出し日々本支部の諸帳簿を調査し居

れり○農商　縣下
作なり[illegible]は本年
は昨年一貫目廿五
二錢五厘ゝ過ぎざ
○安藝津新報の發
會には改進黨員を
加盟したれば遂に
るに至らんか且つ
藝津新報を發行す
たる村雲尼公は去
長寺に於て其翌十
を以て參詣人群集
○管轄換の請願
圖を劃いて廣嶋縣
々田郡右田三吉の
陰の山國ゝて三方
山ならさるはなけ
とは人の往復頻繁
修など往復の便も
出雲の境には三瓶
し其往復も石見安
在地松江は雲州の
備後とは其關係密
るを好む程なれど
至れば嶋根縣廳を
近くして日常是非
轄に屬し廣嶋縣と
明白の事ゝして先
て以來人民の念は
が地方を巡廻せし
し管轄換を聞き屆
見を利するみと甚
企てたる本旨なり
○千葉嶋根の養蠶
の盛んなる土地ゝ
して得る處の金額
大都會ゝ降りして
來運搬の便開けた
にて兩縣下とも養
り千葉縣にては昨
產出せる一箇年間の
千八百二十四顆に
は其價額は百三十一
又嶋根縣下は昨年
餘にして街道驛安濃
雜の現數は邇摩郡八
羽合計一萬二千六百
と假定するときは
圓四十錢ゝ當れるよ
○八德麥　近年種苗
著しくして萬般の
なる篤志家も尠なか
村に任せる栽苗圃主
從事せるよしにて氏
麥の種子を得て試作
麥ゝ[illegible]一割二三分の
るに年々收益を增し
[illegible]の收量[illegible]